

へえな会社

日本レーザー (レーザー機器輸入販売商社)

みんなが株主 やる気アップ

日本レーザー(東京都新宿区)は2007年、MEBO(経営陣と社員による自社株買収)という方法で社員全員が株主になり、親会社からの独立を果たした。

もともとは大手理化学機器メーカーの子会社。しかし迅速な経営判断もできないし、人事で本社が天下り先になるなど社員のモチベーションも上がらなかった。1994年に就任した近藤宣之社長(72)は、子会社そのままでは会社の将来がないと考えた。親会社からの分離にはいくつかの方法があるが、MBO(経営陣による自社株式の買い取り)では経営幹部だけがオーナー意識を持つことになってし

まう。株式上場すれば、株主のために働くことになる。「全社員を巻きこんだやり方は、ほとんど前例がありません」と近藤社長は胸を張る。

社長を含む役員持ち株会の持ち分が過半数の53・1%。もとの親会社は連結対象にならない14・9%に抑え、社員持ち株会が32%を保有する。社員の出資は50万円か25万円かを選べ、義務ではないが嘱託を含むほぼ全社員が株主になっている。現在では毎年10%の配当が出ており銀行に預けるよりもずっと割がいいが、金銭的なメリットよりも、「自分たちの会社」だという意識が高まったことが大きいという。「グレド」として文書化されている

1968年設立。レーザー機器の輸入や販売・開発を手がける専門商社。従業員数52人。資本金3千万円。売上高37億8千万円(15年12月期)。

日本レーザーの経営理念には、「CS(顧客満足)よりES(社員満足)」が掲げられている。社員が自社のサービスや製品に満足していなければ、顧客にも満足を与えられるはずがないという近藤社長の強い考えだという。「顧客満足の徹底的な第一主義では、企業は必然的にブラック化するんですよ。お客様は絶対だと社長が言ってます」と、社員を守れなくなる「社員の能力への要求水準は高いが、満足度を上げる工夫も多い。希望すれば70歳まで勤務でき、さらに80歳まで働けるよう整備中。ライフスタイルに合わせた柔軟な雇用形態で、社員も管理職も3分の1が女性だ。(樋口大)

よしなにへえな



社員の
コホヤキ



管理部総務課長
野中 美由紀さん(53)

パートとして18年勤務した後、子どもが成長して勤務時間を増やし、

いまは管理職になりました。株主としては、投資している以上は会社をつぶすわけにはいかないという気持ちです。業績が上がれば配当もよくなる。がんばりがいがあります。